

検査98年11月05日

システム名 ユニバーサル 2インチ 型式 8ユニット ハイライン

設置年月 年 月

### 静止時検査の結果概要

#### ①ユニット落下テスト

ユニットより大量の空気が入った場合に、機械がどれくらい耐えられるかを見る検査です。

ユニット落下テストにおいて問題はありますが、3ユニット落下時（空気を入れ続ける）でも大きく真空圧は低下しません。

#### ②エフェクティブリザーブ測定時のレギュレーターバキューム

レギュレーターの設置場所を見るテストで、この検査では0.7KPA 低下で問題点となります。前々回問題がなく、今回問題となったのは設置場所の問題ではなく、バキュームポンプと配管の関係です。ポンプの容量と比較すると、現在のレシバジャーからサンタリートラップまでの配管の形、口径が問題となるようになったためです。ポンプの能力は前回と同じですが、レギュレーター交換によりエフェクティブリザーブが改善され、多量の空気が入るようになったために、配管などの口径が問題となりました。

#### ③テイクアウトマニュアルリザーブ測定時のレギュレーターバキューム（参考波形図⑦）

レギュレーターの設置場所が正しいかを見るテストです。この検査では1.0KPA 低下で問題点となります。これは設置場所の問題ではなく（これ以上位置は改善できない）ポンプの大きさと配管の口径形状で問題となっています。レギュレーターの問題ではないということです。

センチネル マーク2

### 動態検査の結果概要

#### ①クロー内圧

クロー内圧の上下変動が少ない、安定した波形が得られた。

### 流水試験結果概要

ハイラインとしてはクロー内圧の低下の少ない、上下変動の少ない波形が得られた。

### コメント

ミルカー設置に関わっていたので、設置直後でも問題点はありませんでしたが、設置後かなり年数が経て、センチネルレギュレーターの調子が悪くなり、そのレギュレーター変更後の検査です。レギュレーター変更後エフェクティブリザーブ量が増える事により、ポンプの大きさと配管の口径の問題が起きてきました。3インチ配管では約3500L程度が限界となり、それ以上の空気の流量があるものに関しては4インチ配管が望まれます。その問題が明瞭となった検査です。



レギュレーターの性能は乳房炎予防には大変重要です。その能力を維持するためにも、定期的な掃除は欠かせません。センチネルマーク2 レギュレーターは次第に能力が低下する事があります。